



BUG Annual Report
2023

BUG

BUGは、2023年9月20日に、株式会社リクルートホールディングスが運営するアートセンター*としてオープンしました。これまでも社会貢献事業として、銀座で30年以上「リクルートの2つのギャラリー」を運営してきた経験を生かして、アーティストやアートワーカー**はもちろん、社会人や学生、外国の方など、多様な来館者の方々にとっても新しい視点や人、物事に出会える開かれた場所となるよう努めています。

また展覧会やイベントの開催において協働する、アーティストやアートワーカーの皆さんと信頼関係を構築し、全力で挑戦できる場と機会を創ることを大切にします。

そして、皆さんが長期的に安心して活動できるよう、キャリア支援やアート業界の労働環境改善にも積極的に働きかけていきたいと考えています。

*展覧会事業だけでなく、アーティストの活動をサポートし、アートを通じてさまざまな人が出会い、互いに影響を与え合う場所という意味を持ちます。

**美術館やギャラリー、あるいはフリーランスでアートに関わる仕事をされている方。



1. ライフステージへの配慮

- イベント開催時は、できる限り子育てや介護との両立が可能なスケジュールで調整。
- 子育て中のアーティストにイベント登壇や展覧会を依頼する際は、育児環境を確認の上、適切なサポートを検討。（例えば、日曜に実施せざるを得ない設営や夜間イベント登壇時のベビーシッター代補助など。）
- BUG Art Awardでは、年齢ではなく制作活動歴で判断。制作活動歴10年以下のアーティストが応募可能であり、「制作」の定義は応募者自身が決定。
- 出産や育児、介護等の理由によるブランクを差し引くことも可能。
- 一都三県以外に在住のアーティスト/アートワーカーが参画しやすい交通費の支給（公共交通機関利用）。

2. 適切なパートナーシップ

- アーティストフィー/キュレーションフィーなどの各種報酬の適切な設定。
- 契約の締結にあたり、事前の内容説明と確認を実施。
- 契約書には著作権等をはじめとしたお互いの権利や報酬/制作費について明記し、実動開始前に契約を締結。
- 展覧会の運営に際して、アーティストやアートワーカーの怪我等に対応できる保険に加入。

3. キャリアの支援

- 【アーティスト向け】BUG Art Awardの開催 ※出品料不要。
 - 制作活動歴10年以下のアーティストを対象に、審査を通じてアーティストの成長を支援。
 - 一次審査を通過したセミファイナリスト20名に対して、審査員全員からフィードバックを行うほか、展示・設営に関するレクチャー/相談会を実施。
 - 審査員は、アーティストと近い目線で伴走・アドバイスし、共に時代を作っていただけたらいい方々、また、BUGに込めた想いに共感し、一緒に新たなアワードを作り上げていただけたらいい方々に依頼。

- 【アーティスト向け】展覧会の開催
 - さまざまな経験やキャリアを重ねるアーティストを展覧会で取り上げる。トークイベント等を通じて作家の考えや作品へのこだわりを広く紹介。
 - 作品販売を通じて、アーティストと来場者を繋ぐ企画の実施。
 - 日本語と英語での展覧会情報の発信とアーカイブの蓄積。

- 【アートワーカー向け】
 - キュレーター支援プログラムの実施。
 - 若手批評家のネットワーク構築、発表の場の提供。

2023年9月20日公開

〈参考文献〉

・Hettie Judah “How Not to Exclude Artist Parents” (2022), 「子育てするアーティストを排除しないために 文化施設やレジデンスのためのガイドライン」, BACK AND FORTH COLLECTIVE訳, <http://www.artist-parents.com/ja/> (参照2023-6-25)

・art for all「美術分野における報酬ガイドライン策定のためのアンケート調査結果」, https://docs.google.com/presentation/d/1p1whb4nPQhS0yBQvWJEqvaSKNi8tx5ldMejaZd_Ueok/edit#slide=id.p (参照2023-6-25)

・表現の現場調査団「ジェンダーバランス白書 2022」, <https://www.hyogen-genba.com/gender> (参照2023-6-25)

P.4-5	活動方針		Vision
P.7	活動一覧		Activity Chart
P.8-21	展覧会		Exhibitions
P.22-27	アワード		Award
P.28-31	イベント		Events
P.32	ウェブサイト・SNS		Website, SNS
P.33	BUG Cafeについて		BUG Cafe
	BUG 運営		BUG Nominal list
P.34-35	付録		Appendix

展覧会一覧

番号	開催日・会期(日数)	展覧会名	来場者数
ex.1	2023年9月20日(水) - 10月30日(月) (36日間)	雨宮庸介個展 「雨宮宮雨と以」	2,107名 (1日平均58人)
ex.2	2023年11月29日(水) - 2024年1月14日(日) (32日間)	バグスクール:うごかしてみろ!	1,267名 (1日平均40人)
ex.3	2024年1月24日(水) - 2月18日(日) (23日間)	第1回BUG Art Award ファイナリスト展	1,408名 (1日平均61人)

アワード

応募者数
第1回 BUG Art Award 415名

Exhibitions

No.	Date	Title	Visitors
ex.1	September, 20 - October, 30 2023 (36 days)	Yousuke Amemiya Solo Exhibition "A Q & I"	2,107 visitors (58 per day)
ex.2	November, 29 2023 - January, 14 2024 (32days)	BUG SCHOOL : Let's Move Our Body!	1,267 visitors (40 per day)
ex.3	January, 24 - February, 18 2024 (23 days)	1st BUG Art Award finalists exhibition	1,408 visitors (61 per day)

Award

Applicants
1st BUG Art Award 415 applicants

Yousuke Amemiya Solo Exhibition “A Q & I”

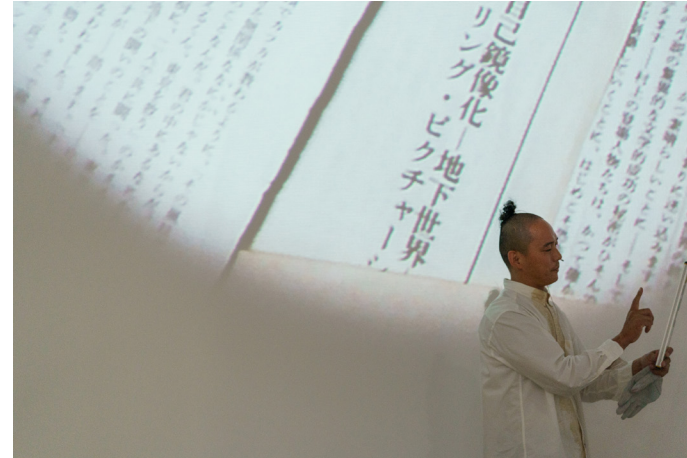
雨宮庸介個展「雨宮宮雨と以」

2023/9/20(水) - 10/30(月) 来場者数 2,107名

協力 SNOW Contemporary、THINK OF THINGS



展示風景



撮影：竹久直樹

告知物

株式会社リクルートホールディングスはアートセンターBUGを9月20日にグランドオープンした。1回目の展覧会は、BUGが支援するアーティストのロールモデルとなるアーティストの個展として、2000年の第15回グラフィックアート『ひとつば展』グランプリを受賞し、2011年には現公益財団法人江副記念リクルート財団の奨学金を受給するなど、キャリアを築く中で当社が度々バックアップしてきたアーティストである雨宮庸介の個展を開催した。

2021年までドイツに活動拠点を持っていた雨宮の帰国後初となる大規模個展であり、会期のほとんどの日程を在廊するというこれまで行ってきた試みに加えて、他者にパフォーマンスの代理を行わせるという雨宮にとって初の挑戦にも取り組んだ意欲的な展覧会となった。

また、カフェのカウンター席にも《果物彫刻の公開制作》と称したパフォーマンスを会期中行い、併設するBUG Cafeと接続した展覧会を目指した。

会期中には2回イベントを行い、ダンス研究／ダンスドラマトゥルク／日本舞踊師範の中島那奈子氏を招聘し、トークを行った。また、ボーカルアーティストの志人氏、アーティストの梅田哲也氏によるイベントには多くの人が来場した。

本展を通じて、BUGの認知度・ブランディングの向上のみならず、パフォーマンスという一般的に想像される展覧会のイメージとは、異なるジャンルでの展覧会を来場者に広く伝えるという啓発的活動を担えた。また、雨宮にとってもターニングポイントとなる展覧会であったことは間違いなく、他の協働したアーティストにとっても自らの今後の活動の指針となったという声が寄せられた。



デザイン：菊地敦己



関連イベント



●雨宮庸介個展「雨宮宮雨と以」関連トークイベント 中島那奈子 × 雨宮庸介

2023/10/20(金) 19:00 - 21:30

登壇: 中島那奈子(ダンス研究者、ダンスドラマトゥルク、日本舞踊師範)、雨宮庸介(本展出品アーティスト)

会場: BUGとオンラインのハイブリッド開催(来場参加:20名、オンライン視聴:108回)

▲雨宮庸介個展「雨宮宮雨と以」関連イベント 志人 × 梅田哲也 × 雨宮庸介

2023/10/29(日)18:00 - 19:00

パフォーマンス: 志人(語部・聲・Vocal Artist)、梅田哲也(アーティスト)、雨宮庸介(本展出品アーティスト)

会場: BUG(来場者数:約130人)

BUG Cafe コラボメニュー

1300年後のコーヒー 飲み比べセット

850円(税込)



雨宮が2014年にはじめた1300年かけて行うプロジェクト「1300年持ち歩かれた、なんでもない石」を発想源にし、1300年後のコーヒーに想像を膨らませ、カカオやドライフルーツなどを調合した2種類の代替コーヒーとRブレンドの飲み比べセット。

本展にも出品されている《石巻13分》のスク립トを抜粋したオリジナルステッカー(計6種)をランダムで提供した。

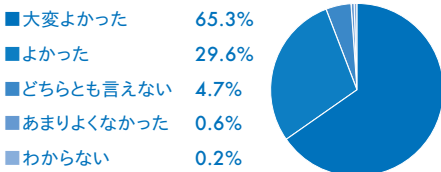
広報促進グッズ



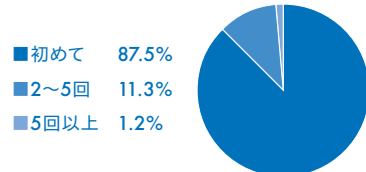
広報促進として、会場にてアンケートに回答した方、BUG公式SNSをフォローした方、メールマガジンを購読登録した方にオリジナルコースターを配布した。

来場者アンケート結果

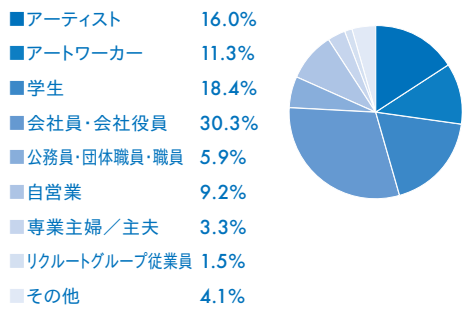
①今回の展覧会はいかがでしたか



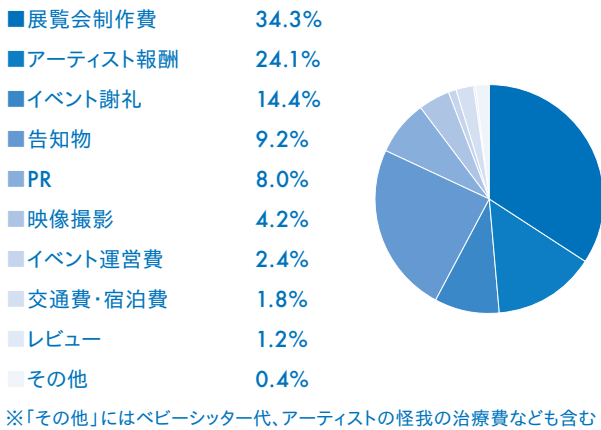
②バグの展覧会・イベントへの来場回数



③主な属性を選択してください



予算配分



クレジット

キュレーション	檜山真有(BUG)
運営	片野可那恵、山越梓(BUG)
広報	桑間千里、石谷茉莉子(BUG)
制作	飯野優美(BUG)
告知物デザイン	菊地敦己
衣装	吉田山
撮影・編集	竹久直樹
撮影	齊藤公太郎、加藤広大、芝田日菜
ブレインストーミング	鹿野震一郎
設営	山際悠輔、下山彩、小邑恭平、石井絵里子、田中啓介、HIGURE 17-15 cas

パブリシティ

日付	媒体名
2023/9/20	美術の窓
2023/9/20	YBSワイドニュース
2023/9/20	美術手帖
2023/9/20	山梨日日新聞
2023/9/20	AXIS
2023/9/20	Photo & Culture
2023/9/20	yahoo!ニュース
2023/9/20	artscape

日付	媒体名
2023/9/20	ぴあ
2023/9/20	Numero.jp
2023/9/20	illustration
2023/9/20	CINRA
2023/9/20	Tokyo Live & Exhibits
2023/9/20	MdN
2023/9/20	Tokyo Art Beat
2023/9/26	朝日新聞

アーティストより

謝辞みたいなこと書くと公開練習見てくれた人全員も入れて書かなきゃなのでませんが、何より話の進みはじめていた展示3ヶ月前から急に担当になったキュレーターに感謝。おかげさまで楽しく仕事できました。この状況でキュレーターがいかにか難しい仕事をしたかが多くの人に理解してもらえると良いけど。キュレーションとは何か?はなかなか分かりにくいけど、個展であれアーティスト本人よりその「展覧会」を理解し人々に興味を持たせ社会に機能させんとしそれにより世界をよくしようとする熱意と勉強と研究を怠らない人しかできない職業です。そこがちゃんと向き合われていくかどうかがBUGっていうスペースがどう社会に機能していくかを決めそうです。鍵はキュレーションを重んじるか軽んじるかな。若い人のためのスペースBUGで、僕と檜山さんと、こけら落としでやれることはとりあえずやりました。今後どうなっていくか、とても楽しみです。 [雨宮庸介 Yosuke Amemiya @YosukeAmemiya(2023/10/31) より引用](2024/4/26 参照)

BUG SCHOOL: Let's Move Our Body!

バグスクール:うごかしてみる!

2023/11/29(水) - 2024/1/14(日) 来場者数 1,267名



展示風景



撮影：那須竜太



告知物

インディペンデントキュレーターの池田佳穂をゲストキュレーターに迎え、「バグスクール:うごかしてみる!」を開催した。

本企画では、複数のアーティストを一挙に紹介する場として、アーティスト9名が小展示と多様なプログラムを実施。アートセンターの可能性を拓く、継続的な取り組みとして、アーティストの思考や作品に触れる機会の創出、さらにこれまでアートに触れる機会の無かったようなビジネスパーソンや学生など、様々な方々にも楽しんでいただける「学び場」を目指した。

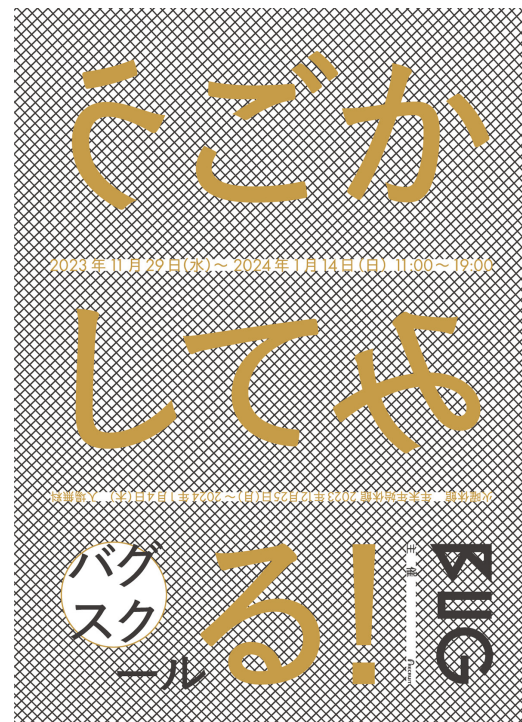
また、本企画は2023年9月に活動を終えたクリエイションギャラリーG8とガーディアン・ガーデンで30年以上続いたチャリティー企画を引き継ぎ、会期中に展示作品の販売を行った。

ただ展示作品を販売するだけではなく、作品購入の手前で、アーティストや作品の背景にある歴史的、政治的、社会的、文化的な文脈を理解する機会を創出し、作品売買の有機的なあり方を考えるため、出展アーティストによる参加型プログラムを開催。また、アーティストに対しては、作品購入者と取り交わす内容や、販売作品の管理方法など、作品販売に必要なプロセスの支援を行なった。

会期中は参加型プログラムと関連トークイベント、計12回の関連イベントを開催。参加型プログラムは展示作品と地続きのパフォーマンスや、身体を動かしながらアーティストの制作背景を体験できるワークショップなど、多彩なプログラム群となった。

本展を通じて、作品販売20点を販売し、作家収入分、作品配送経費等を除いた収益金276,450円を「セーブ・ザ・チルドレン」へ寄付することができた。

また、参加アーティストにとっても、小展示と参加型プログラム、作品販売を通して、これまで経験したことのない新しい取り組みに挑戦する機会にもなった。



デザイン：関本明子



参加型プログラム

「バグスクール:うごかしてみる!」では出展アーティストによる参加型プログラムを開催した。プログラムの概要は以下の通りである。

「思い出に触れる日」 2023/12/3(日) 14:00 - 17:00 講師: 柿坪満実子(本展出品アーティスト) 会場: BUG(参加者:12名)	「エイリアンの脚になる研究員(子ども)の募集」 2023/12/9(土) 13:00 - 16:00 講師: 野口竜平(本展出品アーティスト) 会場: BUG(参加者:15名)
「無痛友情室〜検体1997号〜」 2023/12/10(日) 19:00 - 19:40 講師: 平手(本展出品アーティスト) 会場: BUG(参加者:29名)	「公共空間における呪文の唱え方講座」 2023/12/15(金) 19:00 - 21:00 講師: 渡邊拓也(本展出品アーティスト) 会場: BUG(参加者:8名)
「すみっこディスカバリーボイススクール」 全2日間 ①2023/12/16(土) 13:00 - 16:00 ②2024/1/8(月) 13:00 - 16:00 講師: 光岡幸一(本展出品アーティスト) 会場: BUG(参加者:5名)	「解体と構築のドローイング」 2023/12/17(日) 13:00 - 15:30 講師: 藤瀬朱里(本展出品アーティスト) 会場: BUG(参加者:9名)
「あわいのからだをドローする - 『無意識の身体』をこねてみる - 」 2023/12/23(土) 14:00 - 16:00 講師: 堀田ゆうか(本展出品アーティスト) 会場: BUG(参加者:16名)	「エイリアンの天日干し」 2024/1/6(土) 13:00 - 16:00 講師: 野口竜平(本展出品アーティスト) 会場:BUG(参加者:7名)
「或る川の話」 2024/1/13(土) 15:30 - 18:00 講師: 前田耕平(本展出品アーティスト) 会場:BUG(参加者:15名)	「ないカタチ・あるカタチ」 2024/1/14(日) 13:00 - 16:00 講師: 内田涼(本展出品アーティスト) 会場:BUG(参加者:12名)



関連イベント



■「バグスクール:うごかしてみる!」関連トークイベント 「キュレータークロストーク」山中俊広 × 池田佳穂

2023/12/22(金) 19:00 - 20:30
登壇: 山中俊広(ギャラリスト/キュレーター)、池田佳穂(本展キュレーター)
会場: BUG(来場:14名)

●「バグスクール:うごかしてみる!」関連トークイベント 「MAD MATOHAZURE MAX 〜勝手人間収穫祭編〜」光岡幸一 × 池田佳穂

2023/12/24(日) 14:00 - 15:30
登壇: 光岡幸一(本展出品アーティスト)、池田佳穂(本展キュレーター)
会場: BUG(来場:15名)

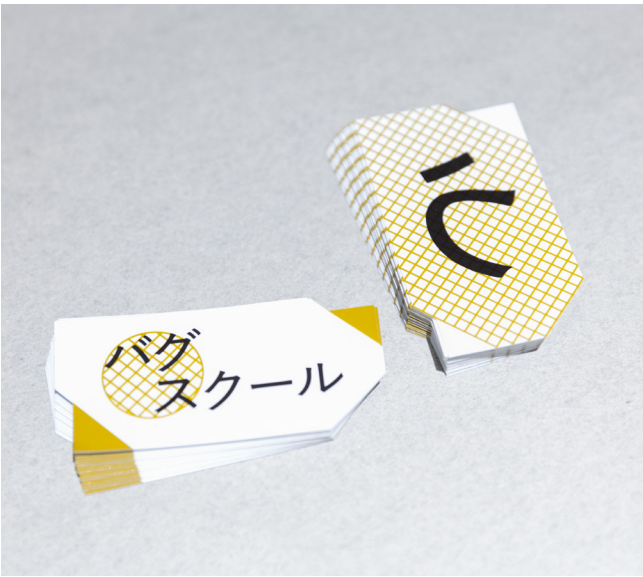
BUG Cafe コラボメニュー

バグスクール:ふってみる!〜冬の香り〜
650円(税込)



「バグスクール:うごかしてみる!」の展覧会コンセプトから、購入者がシェイカーを振ることでドリンクを仕上げ、動きを取り入れた。冬をイメージしたカリン・金木犀・スパイスを使用し、甘く華やかでキリッとした芳醇な味わいである。

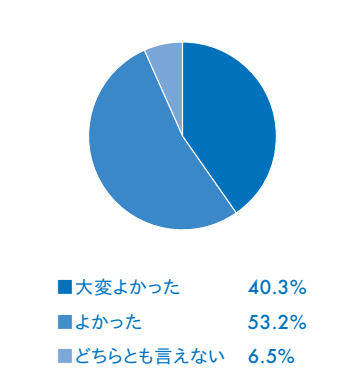
広報促進グッズ



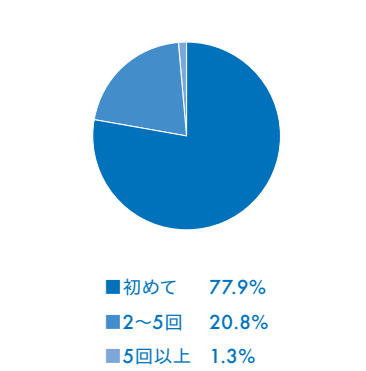
広報促進として、会場にてアンケートに回答した方、BUG公式SNSをフォローした方、メールマガジンを購読登録した方にオリジナルステッカー(計2種)を配布した。

来場者アンケート結果

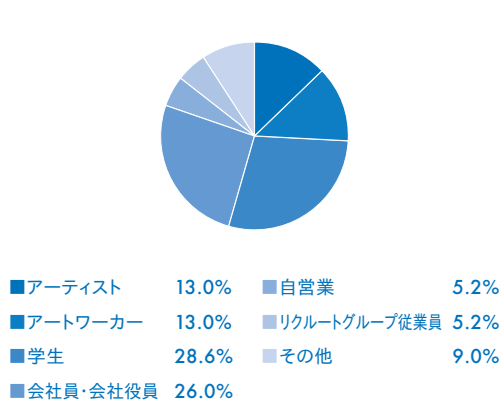
①今回の展覧会はいかがでしたか



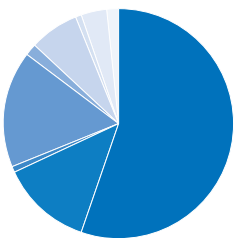
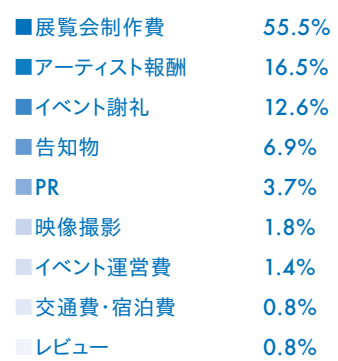
②バグの展覧会・イベントへの来場回数



③主な属性を選択してください



予算配分



寄付金額

「バグスクール：うごかしてみる!」では20点を販売し、作家収入分、作品配送経費等を除いた収益金276,450円を「セーブ・ザ・チルドレン」へ寄付した。

パブリシティ

日付	媒体名
2023/8/22	Photo&Culture,Tokyo
2023/11/27	クマ財団
2023/11/29	ぴあ
2023/11/30	美術手帖
2023/11/30	YAHOO!ニュース
2023/11/30	antenna
2023/12/13	楽活
—	TOKYO ART BEAT
—	アート&カルチャー
—	いこーよ
—	ブレーン
—	Tokyo Live & Exhibits
—	神山財団

クレジット

キュレーション	池田佳穂
運営	小林祐希、石井貴子 (BUG)
広報	桑間千里、石谷茉莉子 (BUG)
制作	飯野優美、吉沢文江 (BUG)
告知物デザイン	関本明子
翻訳	鈴木梨穂
作品・会場撮影	那須竜太
インタビュー・会場動画撮影	西野正将
会場設計	内海皓平
設営	HIGURE 17-15 cas

キュレーターより

多様な世界観を深めながら身体というチャンネルに焦点を当て活動するアーティスト9名と協働して、実験的な学び場「バグスクール：うごかしてみる!」を開催しました。インディペンデントキュレーターとして初めてのグループ展でしたが、各アーティストと丁寧にコミュニケーションを試み、身体を動かしながらアーティストの制作背景を体験できるワークショップや、展示作品の世界観と地続きのパフォーマンスなど、多彩なプログラム群を実施しました。予想以上に出展作品の購入もあり、各プログラムを通した作品理解と、作品購入機会を有機的に繋げることができたのかもしれない。

アーティストより

内田涼

参加作家それぞれがコツコツと積み上げてきたことをキュレーターの池田佳穂氏が丁寧に掬い上げ、ゆるやかに繋いでみせたプログラムだったと思います。今後の制作の原動力になるような貴重な発見や出会いがたくさんあり、まさにスクール(schola)のような空間でした。ありがとうございました。

柿坪満実子

関連プログラムが多数行われていたのが印象深かったです。一般の参加者の方との交流のなかで、作品になる前の大事なやり取りがあったように思います。同年代で多様な表現を続ける方々と展示ができて今後の活動に元気をもらえました。

野口竜平

高い天井に蛸を這わせたり、カフェの屋根にエイリアンを置いたり、エイリアンに操られて街に出てみたり、存分に遊びまくれる企画でとても良かったです。

平手

全員何かしらのイベントをやったのが良かった。一緒に展示してる人のことを知れて嬉しかった。

藤瀬朱里

作品の展示に加えて、「解体と構築のドローイング」というテーマでワークショップを開催させていただいたことが印象に残っています。

堀田ゆうか

特に参加型プログラムを通して、来場者、参加作家同士、そして、自分自身についてより深く掘り下げることの出来た、貴重な時間を過ごせました!展覧会を豊かな出会いの場として改めて再認識できました。

前田耕平

東京駅目の前のシティーすぎるギャラリー空間に、自分が見聞きた「或る川」を立ち上げること。文字通り、あるはずのない川を出現させるバグを起こすことに奮闘しました。良い出会いと展示機会をもらえたこと、池田さん、関係者の方々、お客さん全てに感謝いたします!

光岡幸一

100字で感想を、、と頼まれたんだけど100字じゃ書ききれない!!お店には出回らない、釣った漁師たちだけが味わえる珍味、みたいな素敵な瞬間が沢山あって、それをみんなで分かち合えました。これ即ちスクール!

渡邊拓也

海外からの参加で会場には行けませんでした、遠隔でも参加者の熱気が伝わってきたことは新鮮な驚きでした。WSの可能性を新たに感じることができる良い機会でした。多くのサポートを本当にありがとうございました。

第1回BUG Art Award ファイナリスト展

2024/1/24(水) - 2/18(日) 来場者数 1,408名



第1回BUG Art Awardの一次審査と二次審査を通過した6名のファイナリストによるグループ展を開催した。

乾真裕子は、大阪府和泉市に伝わる「葛の葉伝説」を基にした作者自身のパフォーマンス映像と、ノンバイナリーのアイデンティティを持つ友人のインタビューを織り混ぜた映像作品を制作。彌永ゆり子は、幼少期から使ってきたお絵描きソフトで描いた絵を現在のテクノロジーで表現した作品の他、日用品、梱包材などを使いインスタレーション作品を展示した。近藤拓丸は、植物園や公園へのリサーチから着想を得たイメージのドローイングを3DCGで作った仮想空間や絵画作品に展開した。宮内由梨は、ガーゼ布で覆われた空間とロボットアームを中心に構成した作品から、機械の身体を通して、人間の皮膚感覚がどのように伝わるかという問いを発信した。向井ひかりは、日常の中での発見をきっかけに、砂、ストロー、ブロンズなどを使い、立体作品やドローイング、映像作品など計13点を展示。山田康平は、これまで山や海などの風景を題材にする中で、それらを自然物と認識することに違和感を感じ、「光と影」「色」「形」「線」などについて思考しながら油彩画を描いた。本展では、ファイナリスト6名がそれぞれの展示位置を話し合って決定。約半年の準備期間を経て展覧会開催に至った。

会期初日にはファイナリスト6名によるオープニングトークをライブ配信で開催し、69名に視聴いただいた。また、会期中に実施した公開最終審査のライブ配信は364名に視聴いただき、多くの方にファイナリストの活躍を紹介することができた。

ファイナリストからは、「本展で初めての手法にチャレンジできた。」「これまで続けてきたテーマをより洗練させて新作に取り組むことができた。」などの声が寄せられた。新しい表現に挑戦したい、アーティストとしてより広く活動していきたいという想いを応援し、ファイナリストが全力で挑戦する機会を与えることができた。

展示風景



乾真裕子 《葛の葉の歌》



彌永ゆり子 《material flow / signal》



近藤拓丸 《botanical capture》



宮内由梨 《プシュケーの帰還》

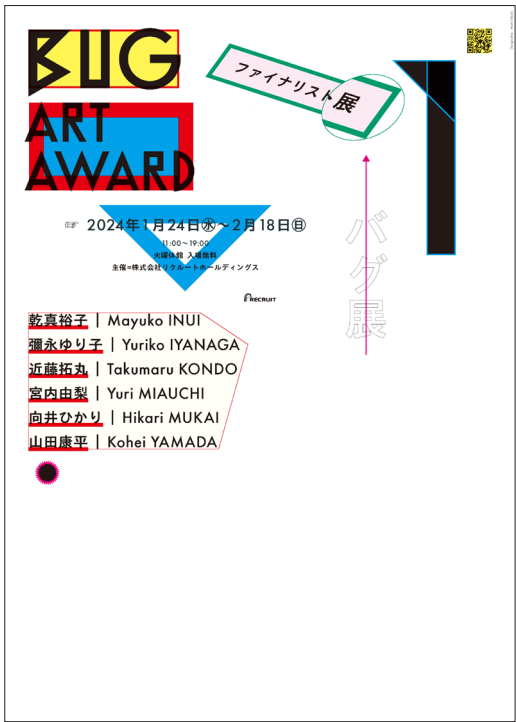


向井ひかり 《対岸は見えない》



山田康平 《Untitled》

撮影：富田了平



デザイン：菊地敦己



美術系専攻の学生*を対象に、バグ展と一緒にカフェを気軽に楽しむためのキャンペーンを会期中開催した。

ドリンクの注文後、さらに展覧会に来たことをSNSで投稿かBUGの投稿をシェアすると、次回来館時使えるクーポン券**を配布した。

*美術関係の専門学校、一般大学の美術系専攻、高校の美術科なども対象とした

**コーヒー/ラテ/紅茶 ALL300円(税込)/有効期限-2024/3/31

1枚につき1杯限り割引有効、他商品の値引きには代用不可



会場にてアンケートに回答してくださった方、BUG公式SNSにフォローしてくださった方、メールマガジンを購読登録してくださった方にオリジナル缶バッジ(2種)を配布した。



▲第1回BUG Art Award ファイナリスト展 オープニングトーク

2024/1/24(水) 15:00 - 16:30

登壇：乾真裕子、彌永ゆり子、近藤拓丸、宮内由梨、向井ひかり、山田康平(ファイナリスト)

オンライン開催(視聴者数:69名)

■第1回BUG Art Award 公開最終審査

2024/2/6(火) 17:00 - 20:40

ファイナリスト／乾真裕子、彌永ゆり子、近藤拓丸、宮内由梨、向井ひかり、山田康平

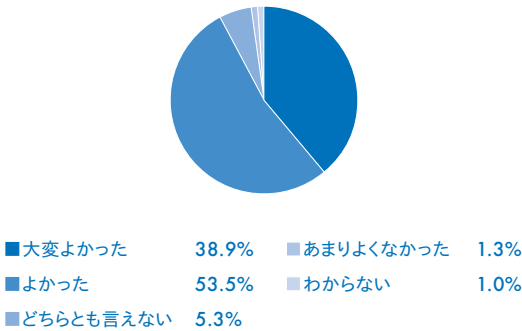
審査員／内海潤也、菊地敦己、たかくらかずき、中川千恵子、横山由季子

オンライン開催(視聴者数:364名)

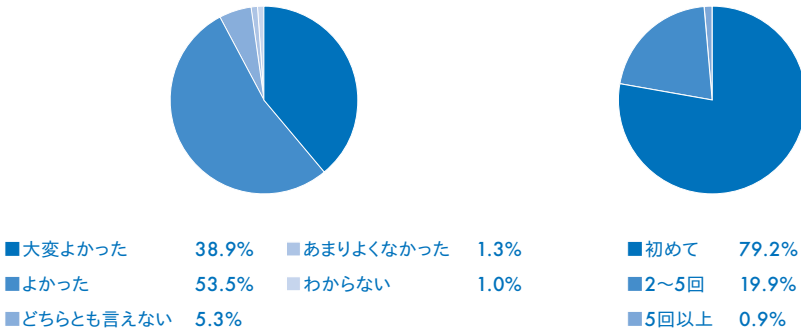


来場者アンケート結果

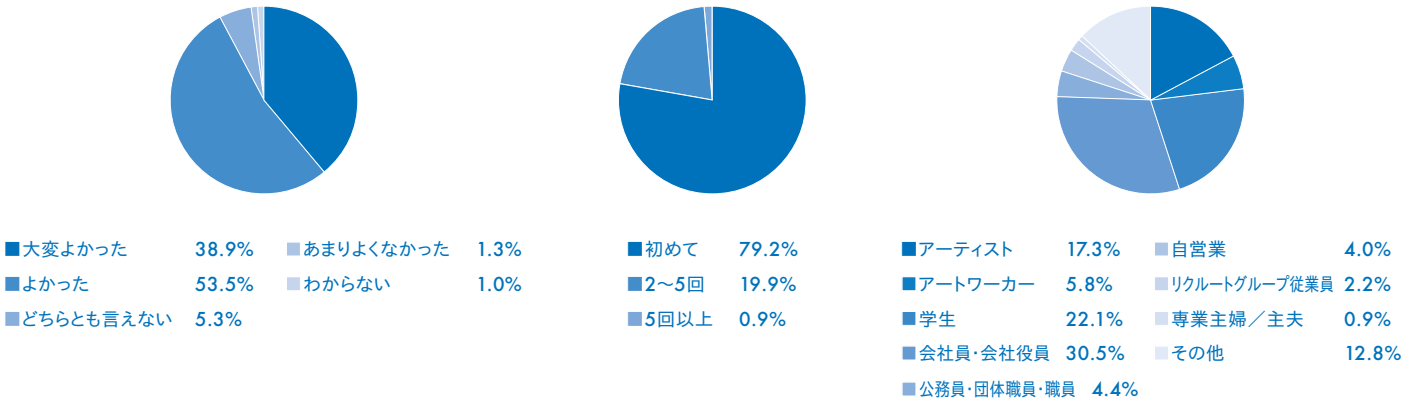
①今回の展覧会はいかがでしたか



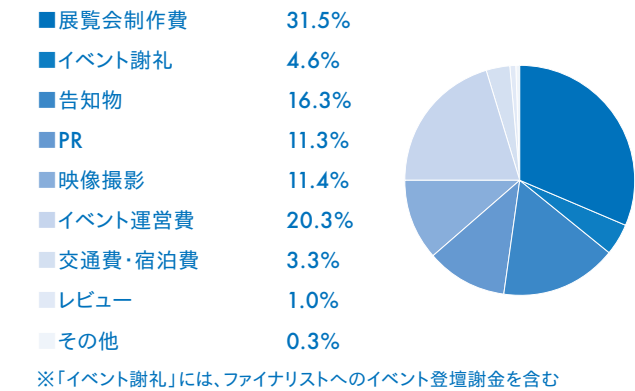
②バグの展覧会・イベントへの来場回数



③主な属性を選択してください



予算配分



※「イベント謝礼」には、ファイナリストへのイベント登壇謝金を含む

クレジット

告知物デザイン	菊地敦己
会場スチール撮影	富田了平
会場映像撮影、インタビュー撮影	西野正将
展示プランアドバイザー	菅亮平
展示・設営アドバイザー	上野春香
設営協力	HIGURE 17-15 cas

第1回 BUG ART AWARD

開催概要

BUG Art Awardは制作活動年数10年以下のアーティストを対象にしたアワードで、第1回は応募総数415件となった。応募者の現住所は東京が42.7%と多数を占め、次いで神奈川が11.6%、大阪が5.5%、京都が5.3%と続く。その他の都道府県は全て5%以下であった。応募作品の分類（応募者自身が応募時に最大3つまで選択）内訳は、“その他”が37.6%と最も多く、“その他”の中身としてはインスタレーションが1/3以上を占めた。次点で、絵画が33.7%、以下、メディアアート14.2%、写真11.3%、彫刻11.1%、イラストレーション7.2%と続く。これ以外のジャンルは全て5%以下であった。

一次審査にてセミファイナリスト20名が決定。セミファイナリストは展示プラン作成にあたりレクチャーや個別相談会に参加し、二次審査に備えた。9月22日（金）に開催した二次審査では、ファイナリスト6名が決定し、作品制作費15万円（第2回からは20万円に変更）が支給された。その後、ファイナリストがBUGに集まり展示位置を話し合いで決めたり、展示シュミレーションも実施した。2024年1月24日（水）ー 2月18日（日）にはファイナリスト展（通称「バグ展」）を開催し、会期中の2月6日（火）に行われた公開最終審査ではグランプリ1名が選出された。グランプリ受賞者は、個展開催費（作品制作費＋設営撤去費）300万円と別途アーティストフィーが支給され、受賞から約1年後にBUGにて個展を開催する。

●応募期間

2023/3/1（水）ー 5/17（水）

▲審査員

内海潤也（石橋財団アーティゾン美術館学芸員）、菊地敦己（アートディレクター、グラフィックデザイナー）

たかくらかずき（アーティスト）、中川千恵子（十和田市現代美術館キュレーター）、横山由季子（東京国立近代美術館研究員）

■総応募者件数

415件（うちグループ応募30件）

●一次審査通過者名 20名

綾野文麿、乾真裕子、彌永ゆり子、h uka、江口湖夏、遠藤茜、近藤拓丸、GCmagazine、下大沢駿、関田重太郎、高橋侑子、辻梨絵子、西出誉、Nelson Hor Ee Herng、ピアノ男、Hikaru mimimewmew、宮内由梨、向井ひかり、森田碧、山田康平

▲二次審査通過者名 6名

乾真裕子、彌永ゆり子、近藤拓丸、宮内由梨、向井ひかり、山田康平

■グランプリ 1名

向井ひかり

審査関連スケジュール

イベント名	日時	講師・登壇者	会場	参加者
1. 一次審査	2023/7/16（日）	—	オンライン	
2. 展示プラン作成 オンラインレクチャー	2023/7/20（木） 18:00- 19:30	展示プランアドバイザー 菅亮平	オンライン	セミファイナリスト 17名
3. セミファイナリスト向け 展示プラン・展示計画書についての オンライン相談会	2023/7/31（月） 16:30- 20:30 2023/8/1（火） 16:30- 20:30 ※1人15分	展示プランアドバイザー 菅亮平	オンライン	セミファイナリスト 16名
4. 二次審査	2023/8/20（日）	審査員5名	BUG	セミファイナリスト 20名
5. ファイナリスト展打ち合わせ・ 展示位置の決定	2023/9/3（日） 13:00-	展示・設営アドバイザー 上野春香	BUG	ファイナリスト 6名
6. 展示・設営についての相談会 ※オンラインor現地参加の選択可能	2023/11/26（日） 13:00-16:00 ※1人30分	展示・設営アドバイザー 上野春香	BUG	ファイナリスト 2名
7. ファイナリスト展設営	2024/1/22（月） 10:00-18:00	—	オンライン	ファイナリスト6名＋ それぞれのお手伝いの方 1～3名ずつ
8. ファイナリスト展 （6名のグループ展）	2024/1/24（水）- 2/18（日）	—	BUG	ファイナリスト 6名参加
9. 最終公開審査	2024/2/6（火）	審査員5名	BUG	ファイナリスト 6名参加
10. ファイナリスト展撤去	2024/2/19（月）	—	BUG	ファイナリスト6名＋ それぞれのお手伝いの方 1～3名ずつ
11. グランプリ個展	2025/2/12（水）- 3/16（日）	—	BUG	グランプリ1名

●乾 真裕子／Mayuko INUI



BUGの皆さんやファイナリスト全員で作り上げていった感覚がありました。ファイナリストから出した要望をすぐに反映してくださったことなど、凝り固まらずにより良いアワードをアーティストと共に作っていかうとする姿勢を感じ、有り難く思いました。

展示では、東京駅すぐ横という立地からか、様々な年齢層の方々からのリアクションがありました。また、最終審査では、今後の作品へのヒントをたくさんいただきました。私のキャリアにとっていい経験になったと思います。ファイナリストの方々との交流ができたこと、今後も自分の活動を見てくださるような学芸員やキュレーター、アーティスト、デザイナーの方々との対話できたことが大きな経験でした。このアワードの特徴は、応募から展示までに成長できるところだと思います。

今後のBUG Art Awardに対しては、若手アーティストへの継続的な支援を期待します。金銭面はもちろんですが、例えば菅亮平さんがしてくださった展示プランレクチャーも継続的な支援の一つの形だと思います。どんどんと若手アーティストが台頭し、消費され、疲弊して辞めていってしまう現状において、大きな成果に対して支援するだけでなく、生活を営みながら制作も続けていけるような仕組みを作っていただくことを期待します。

■宮内 由梨／Yuri MIAUCHI



応募時、アワードに対する自分の役目として念頭に置いていたのは、活動歴10年以下を自分で定義してよいという要項を体現すること／天井高7メートルを活かすこと／ロボット技術を組み込んだ立体的な展示表現を示すこと、でした。その3つは達成できたのではないかと思います。BUGでの新作のために、新たな技法やアイデアを得ることができました。

思い切り転んで思い切り走った半年でした。
反省はありますが、悔いはありません。

今後のBUG Art Award に期待するのは、
・キュレーターを立てること
・搬入時間を増やすこと
・アーティストフィーの追加

(半年に及ぶ準備：資料提出、資料公開、インタビュー、トーク、審査、イベント、制作、設営、搬出)を経験してみると、作品制作費15万円では足りないと感じています。

ですが、準備期間から会期終了までスタッフのみなさまが思いやりに溢れていて、とても安心感がありました。最後までコミュニケーションの問題は全くなく、日々邁進することの楽しさを感じることができました。ありがとうございました。本作の発展形を実現できる日に向けて続けていきたいと思っています。

▲彌永 ゆり子／Yuriko IYANAGA



アワード名からの印象と、ジャンル不問であることが応募のきっかけの大部分です。なんとなく不思議と、自分の作品が受け入れてもらえる土壌があるような印象を受けました。また、審査員の方の顔ぶれも興味深く、思いきって応募しました。

一次審査の通過を経たとき、展示プランの講座があり、その親切さに驚いたのを覚えています。また、二次審査では対面で一对一の形式がとてもありがたかったです。プレゼンテーションには自信がありませんでしたが、ファイナリスト通過の通知をいただき、審査員のみなさまが一つの言葉を丁寧に汲み取ってくださったんだと改めて感じました。

この一連の流れの中で、展示に対しての自分の意識がかなり変わったように思います。今までひらめきに頼って作品を作っていた節がありましたが、展示空間の印象からなにをどのように配置するか、空間全体を俯瞰して制作を行うという意識が生まれました。今後もよりよい制作のために(プランの必要がないシーンであっても)展示プランに書き起こすことを続けていこうと考えています。

また、相互の話し合いで物事が決定していくのもよかったです。ファイナリストからの意見に親身に耳を傾け、可能であることならばすぐに反映する姿勢も頼もしく感じました。これから回数を重ねるにつれて決まり事も増えていくかもしれませんが、このままの柔軟性を保ち、更によりアワードになっていくことを望んでいます。

●近藤 拓丸／Takumaru KONDO



半年に渡り、ファイナリストや審査員、BUGスタッフの方々との協働して展示をつくりあげていった感覚があります。

私の展示の初期プランでは、すでに制作済みの作品を展示する予定でしたが、公開最終審査でグランプリが一名選ばれるという緊張感もあり、「自分がほんとうにやりたいこと」とは何かを考えてすべて新作を制作することにしました。
415名中の選りすぐりの6人が並列化して展示される場において「自分の特異性とは何か」ということに関してはかなり考えました。個展やグループ展とも違い、独特の緊張感がありました。

これから活動が続ける中で、他アーティストと比較されることは避けられないものです。「自分の軸はどこにあり、どのようなポジションの作家であるか」をブレずに制作を続ける良い経験になったと思います。また、協力しつつも競う場としての展覧会は、将来的に国際展に選定される際の指針にもなるような素晴らしい経験になったと思います。

今後のBUG Art Awardについては、打ち合わせを土曜日などにしていただけると予定を合わせやすいと思いました。今後ともBUGにはアートの実験と実践の場として、そして他にはない優れたアワードとして続いてほしいと思います。また、これで終わりではなく、今後も何かクリエイティブなことを共にできればうれしいです。ありがとうございました

▲向井 ひかり／Hikari MUKAI



私にとってアワードに出すということは、一つには短いスパン（応答、やりとり）で答えを出す経験をする事、もう一つには審査という形で作家や学芸員に作品を見てもらう機会を得るということだったように思います。短いスパンで答えを出すということは、仮で答えを出しながら半ば無理やり考えるということです。私自身は、時間をかけて何かを考える方が得意なのですが、それだけだと、自分が制作を通して何をしているのかをケケラもわからないまま、寿命をまっとうしてしまうかもしれないという懸念があります。それゆえ、ときに短いスパンで考えることを必要とします。そのため、実は見当違いなことを書いているかもしれないけどとりあえず一度書いてしまい、違和感を感じるならなぜかと考えるかたちで、今まで制作後に文章を起こして制作を振り返ってきました。

そして文章にすることと同じく、アワードで他者に見てもらったり、見せるために準備するという選択肢があります。プレゼンを準備してその後質疑応答をする、という一つの審査の型に則ってやりとりすることも面白かったですし、（作家が）プレゼンに特化していない人として、特化している部分によるやりとりができる新しい型が見つかって面白そうだと思います。

応募の時点で審査員の方々の仕事を拝見して、それぞれの仕事を（もちろん大変なことはあるでしょうけれど）面白がっていらっしゃる感じがして、審査員というよりも、自分より先に美術を始めた人に作品を見てもらえるんだなと、楽観的な気持ちで作品と審査の準備をすることができました。

■山田 康平／Kohei YAMADA



BUG Art Awardのファイナリスト展を終えての感想として、今まで現代アートの枠組みを決めてきたコンペティションという在り方に対して疑問を持っている人達にとっては、可能性があるような形になれたのでは感じている。

基本的なコンペティションの在り方としては、審査される側は、審査側や事務側が決めたことに対して、約束事などを受け入れる必要を迫られる。しかし、BUG Art Awardに関していえば、コミュニケーションを取れる機会が多いことによって、発言の多さにも繋がるので、アワードの色や基準を審査される側も決められる可能性を秘めている。

第1回目ということもあったと思うが、事務局側もこのアワードをどう良くしていくか、積極的に意見を求めているり、最後の審査のなかでも審査員側は、このアワードの位置付けからかなり議論をしていた。またBUGは、トークショーやSNSの発信などを積極的に行うことによって、注目度を上げるという点においてもある一定の成功は収めたように思う。

自分は絵を描いているので、インスタレーションや他ジャンルの作品といった、普段は組み合わせられないメンバーや空間使いを経験できたことは良い経験になった。絵画だけのコンペティションも多く存在するが、ジャンル不問のBUG Art Awardで絵を見せられる機会を作れたことは、今後美術館などでグループ展や個展をすることを考えた時に良い勉強だった。

今後もBUG Art Awardはこの形を取り続けながら、さらにアワード後の作家への支援、社会との関わりまで、積極的に自分たちとを考えてくれることを期待している。

第1回のBUG Art Award開催に先んじて、グランドオープン前のBUGにてトークイベントを開催した。このイベントは、BUG Art Awardへの応募を検討している方々に向けて、審査員5名それぞれの経験や専門性、人となりなどをお伝えすることが狙いである。また、「アーティスト4名による公募トーク」では、これまでにさまざまな公募を経験されてきたアーティストや写真家の4名をお招きし、これまでのご経験や理想の公募について意見を交わした。

日時	イベント名	登壇	開催形式	参加者数
2023/3/16(木)	海外での活動を射程に入れること	中川千恵子(十和田市現代美術館キュレーター)×藤井光(美術家、映像作家)×盛圭太(美術家)	BUG	27
2023/3/20(月)	ポートフォリオ作成に関する基礎講座	菅亮平(美術作家、SLAP総合ディレクター、広島市立大学講師)	オンライン	90
2023/3/24(金)	アーティストのための近代美術史	横山由季子(東京国立近代美術館研究員)×末永史尚(美術家、東京造形大学絵画専攻領域教授)	BUG	27
2023/3/30(木)	人と機械の交流は作品に何をもたらすのか？	たかくらかずき(アーティスト)×やんツー(美術家)	BUG	29
2023/4/6(木)	オルタナティブスペースのいまむかし、そしてこの先	菊地敦己(アートディレクター、グラフィックデザイナー)×久保寛子(アーティスト)×長谷川新(インディペンデントキュレーター)	BUG	25
2023/4/13(木)	美術と社会およびジェンダーの関係性	内海潤也(石橋財団アーティゾン美術館学芸員)×百瀬文(アーティスト)×原田美緒(金沢21世紀美術館・アシスタントキュレーター)	BUG	43
2023/4/20(木)	アーティスト4名による公募トーク	うらあやか(アーティスト)×黒田菜月(写真家)×田中義樹(美術家、彫刻家)×吉田志穂(写真家)	BUG	32

●トークイベント

日時	トークタイトル	登壇	開催形式	来場者数/ 視聴者数
2023/10/20(金) 19:00 - 21:00	雨宮庸介個展 「雨宮宮雨と以」 関連トークイベント	中島那奈子、雨宮庸介	BUG / オンライン配信	20名/ 108回再生
2023/12/22(金) 19:00 - 20:30	「バグスクール:うごかしてみる!」 関連トークイベント 「キュレータークロストーク」	山中俊広、池田佳穂	BUG	14名
2023/12/24(日) 14:00 - 15:30	「バグスクール:うごかしてみる!」 関連トークイベント 「MAD MATOHAZURE MAX ～勝手人間収穫祭編～」	光岡幸一、池田佳穂	BUG	15名
2024/1/24(水) 15:00 - 16:30	第1回BUG Art Award ファイナリスト展 オープニングトーク	乾真裕子、彌永ゆり子、 近藤拓丸、宮内由梨、 向井ひかり、山田康平	オンライン配信	69名

▲ワークショップ

日時	タイトル	講師	会場	参加者
2023/12/3(日) 14:00 - 17:00	「思い出に触れる日」	柿坪満実子	BUG	12名
2023/12/9(土) 13:00 - 16:00	「エイリアンの脚になる研究員(子ども)の募集」	野口竜平	BUG	15名
2023/12/10(日) 19:00 - 19:40	「無痛友情室～検体1997号～」	平手	BUG	29名
2023/12/15(金) 19:00 - 21:00	「公共空間における呪文の唱え方講座」	渡邊拓也	BUG	8名
全2日間 ①2023/12/16(土) 13:00 - 16:00 ②2024/1/8(月) 13:00 - 16:00	「すみっこディスカバリー ボイススクール」	光岡幸一	BUG	5名
2023/12/17(日) 13:00 - 15:30	「解体と構築のドローイング」	藤瀬朱里	BUG	9名
2023/12/23(土) 14:00 - 16:00	「あわいのからだをドローする - 『無意識の身体』をこねてみる - 」	堀田ゆうか	BUG	16名
2024/1/6(土) 13:00 - 16:00	「エイリアンの天日干し」	野口竜平	BUG	7名
2024/1/13(土) 15:30 - 18:00	「或る川の話」	前田耕平	BUG	15名
2024/1/14(日) 13:00 - 16:00	「ないカタチ・あるカタチ」	内田涼	BUG	12名

■その他イベント

日時	トークタイトル	登壇	開催形式	来場者数・ 視聴者数
2023/10/29 (日) 18:00 - 19:00	雨宮庸介個展 「雨宮宮雨と以」関連イベント	志人 (語部・聲・Vocal Artist) × 梅田哲也 (アーティスト) × 雨宮庸介 (本展出品アーティスト)	会場開催	来場者数約 130名
2024/2/6 (火) 17:00 - 20:40	第1回BUG Art Award 公開最終審査	乾真裕子、彌永ゆり子、近藤拓丸、宮内由梨、向井ひかり、山田康平 (以上、ファイナリスト)、内海潤也、菊地敦己、たかくらかずき、中川千恵子、横山由季子 (以上、審査員)	オンライン開催	364名

●団体鑑賞

日時	来場校名	参加者数
2023/10/23 (月)	東京藝術大学大学院	10名
2023/12/2 (土)	東京デザインプレックス研究所	17名
2024/2/10 (土)	ART TRANSIT	16名

▲社内イベント

・雨宮庸介個展 「雨宮宮雨と以」鑑賞ツアー

展覧会会場にて、企画担当者 (檜山) による展覧会ツアーとパフォーマンス鑑賞を行なった。後半2グループに分かれて参加者同士感想をシェアし話しあい、作品理解を深めた。

日時	登壇	開催形式	参加者数
2023/10/12 (水) 18:30 - 19:30	雨宮庸介	現地開催、要事前申し込み	5名
2023/10/18 (水) 18:30 - 19:30	雨宮庸介	現地開催要事前申し込み	13名

・「バグスクール:うごかしてみる!」鑑賞ツアー

ゲストキュレーターの池田佳穂氏が、参加者との対話形式で参加アーティストの小展示を一つずつ紹介するツアーを行なった。参加者が作品への疑問や好きなところを発言しながら、池田氏から更なる解説をいただき、作品理解や魅力の発見につながった。

日時	登壇	開催形式	参加者数
2023/12/19 (火) 19:00 - 20:30	池田佳穂	現地開催、要事前申し込み	8名
2023/12/20 (水) 19:00 - 20:30	池田佳穂	現地開催、要事前申し込み	11名
2024/1/11 (木) 19:00 - 20:30	池田佳穂	現地開催要事前申し込み	9名

・第1回BUG Art Award ファイナリスト展関連トーク アーティストと考える「アイディア発想のコツ」「キャリアについて」

新しい表現を追求しアーティストとしてキャリアを歩むBUG Art Awardファイナリストたちと「アイディア発想のコツ」「キャリアについて」トークを行なった。社内からHR/サステナビリティ/DEI領域担当者にも各回登壇いただき、業務に活かせるポイントや、リクルートの事業とのつながりなど考える会となった。

日時	登壇	開催形式	参加者数
2024/2/13 (火) 19:00 - 20:30	乾真裕子、向井ひかり、宮内由梨、小野紘史 (リクルート社員)、藤井雅子 (リクルート社員)	現地開催、要事前申し込み	11名
2024/2/16 (金) 19:00 - 20:30	彌永ゆり子、近藤拓丸、山田康平、大河内真理子 (リクルート社員)、星星沙 (リクルート社員)	現地開催、要事前申し込み	17名

■ウェブサイト

制作… Semitransparent Design

アクセス件数: 58,531

※ 2023/9/25 - 2024/3/31

●メールマガジン

クリエイションギャラリーG8、ガーディアン・ガーデンの2つのギャラリーのメールマガジンを引き継ぐ形で、

2023年10月よりBUGのメールマガジン「BUGMAG」を発刊。

登録者数: 3,846名

▲各SNS

・Instagram (@bugart_tokyo) 2023年9月開設

フォロワー数: 4,102

・X (@bugart_tokyo) 2023年9月開設

フォロワー数: 1,160

・Facebook (bugart.tokyo) 2023年9月開設

フォロワー数: 167

■各ウェブサービス

・Note (bug_art) 2023年9月開設

投稿件数: 29

・YouTube (bug-art) 2023年9月開設

投稿件数: 28

・Spotify 2023年12月開設

投稿件数: 2

BUGには併設するカフェがあり、BUGのオープンに先駆けて、BUG Cafeが2023年4月14日にトライアル営業を開始した。

9月20日のBUGのオープンに合わせて、本営業を開始した。

席数: 22席

営業時間: 平日 8:00-19:00 / 土日 11:00-19:00

定休日: 火曜日

運営: 株式会社HAGISO

■ BUG cafe との協働 | Collaborate with BUG Cafe

BUGに併設するBUG Cafeでは展覧会ごとに協働を行なっている。2023年度は2つのコラボメニュー、1つのキャンペーンを行った。

展覧会名	コラボレーションメニュー／内容	提供価格	種別
雨宮庸介個展「雨宮宮雨と以」	1300年後のコーヒー飲み比べセット	850円(税込)	ドリンク
バグスクール:うごかしてみる!	バグスクール:ふってみる!～冬の香り～	650円(税込)	ドリンク
第1回BUG Art Award ファイナリスト展	バグ展×BUG Cafe キャンペーン (美術系の学生に向けた割引キャンペーン)	—	割引キャンペーン

アートセンター BUG 運営 | BUG Nominal list

責任者	花形照美
企画	石井貴子、片野可那恵、小林祐希、野瀬綾、檜山真有、山越梓(～2023/9/30)
広報	石谷茉莉子、桑間千里
制作	飯野優美、吉沢文江
運営管理／庶務	小川直子、黒田直子、伊藤千柴、伊藤和枝(2024/1/1～)、加瀬薫理(2024/3/1～)
受付	川瀬裕子、加藤香央里、芦川瑞季、志賀耕太、堀田ゆうか、梶雄介、池上香夜子(～2023/12/31)

BUGの2023年9月20日のオープンを前にして行ったリクルートアートセンタープロジェクト時のイベントの記録。

●2022/7/27(水) 11:00 -17:00

「遮光実験映画祭」

新スペースの壁の高さや遮光性などを検討するために、スペースの一部に暗幕を設置し、映像作品を投影する環境を変えながら見え方をテストする「遮光実験映画祭」を実施する。

また、参加作家やスタッフ等との交流を図り、新スペースに期待することや活用方法などを会話しながらスペースへの関係者を増やす目的もあった。

参加者：雨宮庸介(アーティスト)、さわひらき(アーティスト)、荒木悠(映像作家)、千賀健史(写真家)、藤倉麻子(アーティスト)、タツルハタヤマ(多摩美術大学油画専攻)、小野真理恵(多摩美術大学)、四宮スズカ(多摩美術大学)、西野正将(美術家／映像ディレクター)、富田了平(フォトグラファー／西野さん撮影サポート)、光岡幸一(作家／RCCスタッフ)、志賀耕太(東京藝術大学大学院／RCCスタッフ)、平井政俊、不破駿平(平井政俊建築設計事務所)、村岡桃子、劉 伝(Lighting Planners Associates Inc.)

▲2022/8/25(木)

「スペース設計の意見交換会レポート」

新スペースの天井を一部解体した状態を確認し、主に展示壁の高さについて検討を行うための意見交換会を実施した。

参加者：雨宮庸介(アーティスト)、池田佳穂(森美術館 展示・制作グループ コーディネーター担当)、うらあやか(アーティスト／CS LAB 管理人)、加藤甫(フォトグラファー)、丹原健翔(アーティスト／アマトリウム株式会社ファウンダー)、長谷川新(インディペンデントキュレーター)、山内祥太(アーティスト)、平井政俊、不破駿平(平井政俊建築設計事務所)

■2023/7/12(水) 19:00-21:00

「美術と批評(性)について」

BUGではアーティストのみならずアートワーカーのキャリア支援も活動軸の一つに含まれており、批評やキュレーションなどを横断した活動をするきりとりめでる氏と吉田山氏をお招きして、美術批評と美術における批評性や、美術における批評(性)の現在、今、未来を語っていただいた。

登壇者：きりとりめでる(美術批評・デジタル写真)×吉田山(アートアンブリファイア)× 司会・モデレーター：檜山真有(リクルートクリエイティブセンター)

来場者数：50名

●2023/7/26(水) 17:00-18:00/18:00-19:00、7/28(金) 17:00-18:00/18:00-19:00、8/22(火) 8:00-9:00/ 17:00-18:00

「リクルート従業員むけ対話型アート鑑賞会」

アート作品を囲んで参加者同士で感想を話し合う対話型鑑賞ワークショップ。アートを通して、正解のないものと対峙し思考する体験を従業員向けに提供した。鑑賞作品は同時期にガーディアン・ガーデン最後の展覧会を担当されたカワイハルナ氏よりお借りした。

ファシリテーター：桑間千里(リクルートクリエイティブセンター)

合計参加者数：41名

●スペースについて

段状の形が印象的な展示壁は、外から展示の様子が垣間見え、大通り側の壁面も造作が可能につくりになっている。

一番低い壁面でも高さが3mあり、一般的な展示壁としても十分な高さで面積を持つ。展示空間として成立させながらも、作品やアーティストの活動が、外とつながり、広がっていくことを促すような設計である。



竣工日：2023年3月9日

総面積：219.64m²

展示スペース面積：110.07m²

展示壁面長：37.6m

設計…平井政俊(平井政俊建築設計事務所)

▲ロゴについて



それぞれの文字は○△□の形で構成され、多様な考えや表現が BUGを通して出会い、バグという可能性が生まれることを表している。右肩上がりのデザインには、アーティストの成長を後押ししていく場としての想いが込められている。アートセンターの名称であるBUGと、活動の軸となるBUG Art Award、そしてスペースに併設されるカフェBUG Cafeの3つのロゴが出来た。

VI計画…菊地敦己

■ステートメント

この世界に、バグを。

この世界に必要な違和感。ふいに気づきをもらう瞬間。
そんな無数のハプニングに、私たちは出会いたい。
何かを変えていくだらう荒けずりな才能を、
不可解に思う人もいるかもしれない。
でも、その可能性に、賭けようと思う。
ぶち当たる、発見する。繰り返す化学反応のある日常こそ現実。
BUG は、そういう場でありたいです。

ステートメント制作…国井美果

2023年度 BUGアニュアルレポート

発行: BUG

〒100-6601

東京都千代田区丸の内1-9-2

グラントウキョウサウスタワー1階

2024年5月7日発行 （非売品）

BUG Annual Report FY2023

Published by BUG

Gran Tokyo SOUTH TOWER 1st floor,
1-9-2 Marunouchi, Chiyoda Ward, Tokyo, Japan

Not for Sale